

学年	教科名	科目名	単位数	対象コース
高校1年	国語	言語文化	2	特進
教科書・副教材		数研出版『力をつける言語文化』、第一学習社『ダブルマスター古典文法＋漢文句形』、第一学習社『ダブルマスター古典文法＋漢文句形 準拠ノート』、桐原書店『読んで見て覚える 重要古文単語 315』、京都書房『新訂 国語図説 五訂版（デジタル）』		

科目の目標			
特進コースの授業では、高校1年次に古文単語・古典文法・さまざまな種類の文章読解など古典に関する基礎を築くことを重視します。基本的に週1回古文単語テストを実施し、作品読解と並行して1年間で古文単語集の第1章以上を修了し、古典文法は用言と助動詞までを修了します。また、進度を確保するだけではなく定着していることにも気を配ります。文章読解に関しては、なるべく多様な種類の作品に触れつつ、意味解釈だけに終わらないように配慮し、パフォーマンス課題やリフレクションを通して3観点からの評価ができるように配慮します。なお、現代の文学的文章の分野は、2年生時の「文学国語」で扱うこととします。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	古典文法の用言・助動詞について理解している。古文単語は必要語彙数の約半分理解している。また、漢文句法は再読文字、受身、使役等を理解している。	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて古典文法等の知識に基づいて内容を的確に捉えることができる。	作品背景や文章に興味を持ち、自ら意欲的に取り組み、言葉を通して自ら表現することで、他者や社会に関わろうとしている。
評価の方法	【成果物】 〈 〉は略 パフォーマンス課題 〈パ〉、授業・家庭学習の成果 〈成〉 リフレクション 〈リ〉 【ペーパーテスト】 定期考査 〈考〉、単元テスト 〈単〉、小テスト 〈小〉	【成果物】 〈パ〉、〈成〉、〈リ〉 【ペーパーテスト】 〈考〉、〈単〉、〈小〉	【成果物】 〈パ〉、〈成〉、〈リ〉

年間学習計画			
学期	学習内容	時数	主な評価方法
1学期	授業ガイダンス（教材・評価方法の確認）	1	授業・家庭学習の成果、予習リフレクション、定期考査
	「兄のそら寝」歴史的仮名遣いの復習。語句を踏まえて内容を読解する。	3	
	文語文法：動詞の変格活用の種類や識別を学ぶ。	3	
	漢文訓読の基本：返り点の示す語順や置き字など基本的な助字を学ぶ。	2	
	文語文法：動詞の正格活用、形容詞、形容動詞の活用を学ぶ。	3	
	「絵仏師良秀」やや長い文章の読解を進め、主語の交替について学ぶ。	3	
	「矛盾」書き下し文の復習。語句を踏まえて内容を読解する。	3	
2学期	「丹波に出雲といふところあり」語句や文法事項を踏まえて内容を把握する。	3	授業・家庭学習の成果、予習リフレクション、定期考査
	文語文法：助動詞 過去・完了・使役・尊敬の助動詞を学ぶ。	4	
	「推敲」再読文字について学びつつ内容読解を進める。	3	
	「芥川」歌物語の流れを学び、和歌と本文との関わりを理解する。	3	
	文語文法：推量の助動詞を学ぶ。	3	
	漢文句法：使役・受身の用法について学ぶ。	2	
	「借虎威」使役の用法の知識を踏まえて本文を読解する。	2	
3学期	「木曾の最期」軍記物語を読解する。	5	授業・家庭学習の成果、予習リフレクション、定期考査
	文語文法：助動詞 断定・願望・比況の助動詞を学ぶ。	2	
	監視の形式：近体詩の形式と押韻について学ぶ。	1	
	「絶句と律詩」「春暁」「送元二使安西」「春望」を学ぶ。	3	